令和4年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立　　広徳　　中学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和4年4月19日（火）に、3年生を対象として、「教科（国語、数学、理科）に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1．調査の目的

⑴　義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。

⑵　学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

⑶　そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2．調査内容

⑴　教科に関する調査（国語、数学、理科）

教科に関する調査（国語、数学、理科）
①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等 ②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

⑵　生徒質問紙調査

生徒質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

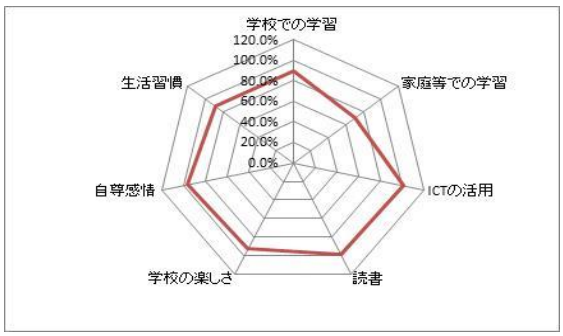
⑴ 全国・本市の学力調査（国語、数学、理科）の結果

本年度の結果	国語		数学		理科	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	9.3	66	6.6	47	9.8	47
全国	9.7	69	7.2	51	10.4	49

⑵ 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	自分の考えを求める問題やわかりやすく文章を表現する問題の正答率に課題がある。しかし、文章中の表現や情報の整理など文章内容の理解力は全国平均に近い数値になるなど力が身についている。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	文章の展開に即して情報を整理し，内容を捉えたり、封筒の書き方を理解して書く問題の正答率は全国平均に近い。	
	努力が必要な問題	書いた文章を読み返し，論の展開にふさわしい語句や文の使い方を検討する問題は正答率に課題がある。	
数学	全体的な傾向や特徴など	数の事柄が成り立つ理由を説明するなど数の性質をとらえる力が身についている。しかし、確率を求めたり、事象を数学的に解釈したりする問題の正答率は、全国平均を下回るなど論理的な思考力に課題が見られる。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	連立二元一次方程式や確率の問題などの計算や数的な論理的思考に関する理解については全国平均に近い。	
	努力が必要な問題	連立二元一次方程式や確率の問題など複雑な計算や数的な論理的思考に関する問題の正答率が低い。	
理科	全体的な傾向や特徴など	科学的な知識を理解したり、科学的に探究する学習場面で問題解決につながる道筋を理解する問題は全国平均に近い。しかし、複数の知識同士の関係性を考え活用したり、その関係性から問題解決につなげようとする能力に課題がある。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	・化学変化や静電気などの知識を理解したり、説明したりする問題の正答率は、全国平均に近い。	
	努力が必要な問題	実験や観察を分析して改善し、説明したり、法則を生かして、それを活用し説明する問題の正答率が低い。	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析

・ICTの活用が校内でも浸透しており、生徒も授業での活用を通して学習課題の解決に努めている。
・読書に親しむ生徒の割合が全国平均に近く、休み時間や昼休み等を活用するなど積極的に読書に取り組んでいる。
・自尊感情は、集団の中での自分の居場所作りが進み、自分自身を肯定的に捉えようとする生徒の割合が高まってきている。
・家庭学習については、全国平均よりも自ら計画的に勉強している割合が大きく下回っており、家庭学習の定着という点で課題がある。
・生活習慣では、朝食や携帯電話等の使用時間に課題があり、そのことが家庭学習の定着につながらない要因となっている。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

◎授業改善
・年間2回の互見授業の機会を生かし、「めあて」や「まとめ」の整合性を踏まえて、「振り返り活動」につなげるため、話し合い活動やアクティブラーニングなど思考・判断力を向上させるような活動を通して知識の定着を図っていく。
◎ローテーション道徳の実施
・引き続き全職員で道徳に取り組み、生徒個々の価値観を揺さぶるなど生きていく上で乗り越えなければならない課題を意識させ、努力することの大切さや目標を達成したときの達成感について考えさせるようにする。
◎補充学習の充実
・継続して放課後学習を全職員を上げて取り組み、コロナ対策を十分踏まえながら個々の生徒の実態に即した指導を充実させていく。
・生徒が放課後等に自由に学習に取り組めるよう、コロナ対策を十分踏まえながら職員室外周辺に机脚を準備すると共に、質問等に素早く個別対応できるようにする。

② 家庭生活習慣等に関する取組

◎自学ノートの活用
・自学ノート（Kワーク）の改善を図り、教科ごとに生徒がより取り組みやすい課題を与えるなど学習効果の高まりが期待できるような活動につなげていく。
・継続して課題の内容や方法を指導し、学級担任を中心に学年で確実に点検する。未提出者は放課後残ってさせるなど粘り強く継続して取り組んでいく。
◎学習計画表や家庭学習時間コンクール
・定期考査2週間前からの「学習計画表」を学級活動の時間に担任指導の下に作成させると共に保護者確認印を担任が点検し、個々の生徒の意識を高めさせていく。
・家庭学習時間コンクールなど生徒会活動の取り組みを通して、家庭学習を促していくような学級・学年集団作りをしていく。
・家庭学習の実態について、教育相談等でその取り組み方について確認すると共に、その内容を分析し、必要な指導や助言を行う。
◎生活習慣の改善
・夢や目標を持つことの大切さを学級活動や道徳の時間を通して考えさせると共に、夢や目標を達成するための課題を明らかにしていく。
・明らかにした課題を教育相談等で学期に1回程度振り返ると共に、朝食や携帯電話の使用時間と学力の実態との関係について、保護者会や学級通信等で周知するなど啓発活動を充実させていく。
・小中連携の校区事業を通して、小中の生活実態から見えてくる課題認識を共有すると共に教科ごとに生徒がより取り組みやすい課題を与えていく。